

キャンヘルプタイランド

ネットワーク通信

2009年5月10日発行 第45号

バンコク便り

タイ・バンコク在住の西川会長から

今ではすっかり慣れてしまいましたが、タイで働きはじめて驚いたことの一つに、働く女性が非常に多いというのがあります。たまに日本に帰って乗る通勤電車が黒っぽいスーツを着た男性で埋め尽くされているのに奇妙な違和感を抱いてしまうほど、タイの通勤電車はカラフルな服装をした女性の割合が多くて、明るい感じがします。(男性もスーツを着ないので、日本のサラリーマンよりずっと華やかで明るさに貢献しているのですが。)企業の管理職や幹部に女性が就くのは何ら珍しいことではありませんし、大学や官公庁のトップに女性が立つこともニュースになるようなことではないようです。私自身もタイへ来て何度か勤め先を変えてきましたが、ほとんど女性上司の下で働いてきました。調べてみるとタイの女性の社会進出度はアジア・太平洋地域 14 カ国中、オーストラリアに次ぎ第 2 位だとのことです (Master Card 調べ)。ちなみに日本は下から 2 番目の第 13 位ですから、日本人から見たタイはやはり女性上位の国といえるのかもしれませんが。

なぜこれほどまでに女性の社会進出が進んでいるのか、実際に働いている学生に聞いてみたところ、仕事が好きだからという答えもありましたが、夫一人だけの収入では自分が求める生活スタイルを維持できないからという答えが圧倒的でした。夫一人で家族全員を養えるほどの収入を得られる日本が羨ましいとの声もあり、好きで働いているわけではないと言いたげです。

しかし、お金が足りないという理由だけで、正社員として働きつづけられるかと言えば、そうでもない私は思うのです。子どもがいれば、子守りもあるでしょうし、家事全般にだれが責任を持つのかということも日本人なら考えるでしょう。タイで、特にバンコクで共働きが一般的なのは、金銭的な動機付けだけではなく、外で働きたいという意志を持つ女性が、当たり前前に働くことができる社会のムードと仕組みがあるからなのではないか、と思えてなりません。

例えば、特にバンコクでは女性が毎日炊事をすべしといった観念を男性も女性も抱いていないようです。食事は、親に作ってもらう。そうでなければ、外食は栄養が偏るとか、野菜が不足するといったマイナスイメージもほとんどないので、外で買ったおかずをうちで食べたり、外食したりするのが一般的です。母親は料理上手だけど、自分は全く料理ができないという若い女性が驚くほどたくさんいます。料理ができないと恥ずかしいという感覚もかなり希薄です。また、子どもをどうしても家に置いておけない時、日本人なら、会社を休むことをまず考えるのではないのでしょうか。しかし、タイ人なら「子どもを職場に連れていく」という選択肢を排除しません。私の学校の清掃婦はイサーンからの出稼ぎですが、学校が休みに入ると子どもをバンコクに呼び寄せ、職場にも連れて来ます。ベビーシッターに急に休まれたから、子どもを連れて来たという人もいましたが、周りもそれを当然と受け止め、取り立てて犒養を買うようなこともありませんでした。日本なら職場に子どもを連れてくるなんて非常識な、ということになるのかもしれませんが。

さらに、家事の外注に費用がさほどかからないということもあります。金持ちでなくても、それなりの収入があれば、掃除、洗濯、子守り等を代行してくれるサービスを利用することが可能です。私が住んでいるのは、単身者向けの安アパートですが、こういったアパートにも洗濯とアイロンがけを月極めで請け負ってくれる店があり、大繁盛しています。(私はもったいなくて自分でしていますが。) もちろん、家政婦、ベビーシッター、洗濯屋等、こういったサービスの多くは外国人や地方から出てきた安い労働力の存在なしには成り立たないわけなのですが、家族の助けがない女性の社会進出に一役かっているのは確かです。

また、転職が一般的なので、出産や子育てでキャリアに多少ブランクが空いても職探しに苦労しないという点もあるでしょう。

国の制度や仕組みが整っているわけではないのに、タイの働く女性が生き生きと見えるのは、こうした社会の支えがあるからでしょうか、あるいは私が日本で働く女性のことをあまり知らないからでしょうか。

西川弘達@バンコク

特集記事

～2008 年度総会報告～

報告者：内田 由布子

会員として2009年度の総会に出席しました。その模様をご報告します。

キャンヘルプタイランドの2009年度総会は4月5日(日)曜日の13時より、日商ビル2階会議室にて開催されました。

当日の出席者は西川会長、新井副会長の出席の他、総勢13名の出席がありました。2008年12月31日時点の正会員数は85名で、委任状提出は38名、会則により総会の定足数は正会員の1/10以上であることから総会は成立し、進行されました。

議事は次のとおりでした。

- | | | | |
|------|------------|------|------------|
| 1号議案 | 2008年度活動報告 | 2号議案 | 2008年度会計報告 |
| 3号議案 | 2009年度活動報告 | 4号議案 | 2009年度予算 |
| 5号議案 | 2009年度運営体制 | | |

以上の議案が各担当者より経過説明がなされ、質疑応答もされて、全ての議案が可決されました。今回は議案書には書いてありませんでしたが、2010年に迎えるキャンヘルプタイランド20周年の記念事業について意見がありました。案として①日本における記念事業②タイにおける記念事業があり、それぞれに対して会員からも意見が出されました。記念事業を行うかどうかも含め、今後の運営委員会で詳細を話し合っていくことが確認され、2009年度の総会での実施決議に向けて決めていくこととなりました。そして14時30分頃総会は終了しました。

引き続き懇親会に入り、西川会長よりタイ政権交代に坂う地方の子どもたちやその家庭への影響が話され、奨学金の継続支援の必要性を改めて感じた次第です。



特集記事 2

～2009年3月交流ツアー～

2009年3月20日から約10日間、「カサロンの家」の子ども達と共に交流キャンプを行いました。その時の様子を参加者の市野さんが旅行記として報告していただきましたので、45号、46号、47号のネットワーク通信で3回に分けて掲載したいと思います。

旅行記 前編 (3月20日～3月21日)

3月20日(金)晴れ 出発

7時50分にセントレアに到着。誰もいない。タイ航空の入り口で待つと、坂さんが迎えに来た。伊藤理恵さんと3人そろって、手続きを済ませて、混雑する出国通関を通過して無事に出発。見送りは坂さん妻と子供、それに大矢さん。

伊藤理恵さんは2年前に土の家の食堂を作った時に一緒だった人です。知多市に住んでJA知多に勤めています。いつもこの3月期の行事に参加されます。年度末は暇なようです。

タイ航空TG645便は10時15分に予定より10分早く出発する。ほぼ満席状態。飛び立ってすぐに到着は1時間早いとの機内放送が入る。3月末でジェット気流が吹いていないから早く着けるのであろう。

14時10分にバンコクの国際空港スワンナプームに到着する。残念ながら今回は雲ばかりで途中の景色が全く見えなかった。せっかくの窓側の席も意味なかった。

予定より早く到着しても迎えのムさんたちがまだ来ていなくて出発は予定通りになる。しかし、その前に亀山さんと奥さん娘さんと会う。土産を渡し、アイちゃんからの手紙を受け取る。手紙は英語で書かれている。すでに彼女は高校を卒業して、勤めているようだがよく分からない。どうも日本語の勉強は進んでいないようだ。

水野さんが現れる。この人は今回始めて会う人です。清須市に住んでいて、リタイヤしたばかりのようです。水野氏の先祖は東加茂郡の小原村に住んでいて、そこにお墓があるそうです。ご先祖の初めは、元刈谷藩主の水野氏で、水野主水守の末裔だそうです。十数代目とのことで、水野氏が刈谷から他国へ大名の配置替えになった時に、大名に着いていかないで、小原村に土着したのでしょう。

ムさんと若い子が一人付いてやって来ました。若い子は、インさんと言い、イサーン(東北)地方出身で、中学・高校時代にキャンヘルタイの奨学金をもらっていて、ムさんと長く付き合っているそうです。

現在は、チョンブリ市にある大学に通っているそうです。その大学は甥の森部由多可君の住んでいるシラチャ市のすぐ近くにあり、日本語学科もあって、シラチャ市の日本人会との付き合いもあるそうです。

インさんはほんの少ししか日本語が話せません。ひらがなは何とか読めますので、帰りには「手差し会話タイ編」を渡して来ました。今度会えるときにはし

著者 市野忠士様

っかりと日本語が話せるようになってもらいたいものです。

チュアムへ

15時40分に迎えに来た貸切のワゴン車で、ホアヒンへ向かいます。高速道路を乗り継ぎ、空港から混雑しないようにバンコクの南を通過して、ひたすら走り続けます。高速道路から国道4号線に入り、塩田地帯を横切り、ひたすら南下します。

バンコク湾はほぼ正方形の形をしていて、東(シラチャ市がある)、北(バンコク市とスワンナプーム空港)西(チュアム市・ホアヒン市)の三方が陸地で、南はタイとカンボジアとマレーシアに囲まれたタイ海があります。

タイ湾の北東から南西へと走ったことになります。休まずに走り続けて、チュアム市で早めの夕食を取りました。(5時40分から6時20分)ここで食事だけして、飲食物や必要品の仕入れを忘れてしまいました。失敗でした。宿泊するところがどんなところか分からずに期待してしまいましたので。

ホアヒン市は高級リゾート地で、商店街もたくさんあるだろうと思いました。

チュアム市とホアヒン市のちょうど中間で、空き地の中にとりどころ別荘地があるところで、農村も近くには見当たりません。ですので、商店街も見当たりません。

夕方の6時30分には宿泊地に到着します。「天国の海岸」にある、カトリック系のリゾート地です。タイの全国からキリスト教に関係する多くの団体がやって来て利用しているようです。入り口の横には管理人の家があり、入り口は夜になると閉められてしまいます。近くには小店ひとつ見当たりません。ここで3日間缶詰にならなければならないのです。私は初めてですが伊藤さんは来たことがあるようです。

天国の中のキャンプ地

園内は一辺200mほどの正方形で、東側が海に面しています。南には大きなホテルのような建物がありますが、ホテルではないそうです。(守衛の話)ホアヒン方面に勤めている人たちのアパートのようですが、大半は空き室になっています。北は金持ちの別荘のようで、ひっそりしています。どちらも海岸まで鉄条網が張られています。でも、砂浜には境がありませんので引き潮の時には、どこまでも歩いて行きます。海は一応マイビーチでも自由に使用できます。

我々の入ったコテージ風の建物は入り口に大きな

紙で、「飲酒と賭博」禁止と書かれています。もっともタイ語ですのでムさんの訳です。本当はどうだかわかりません。水野さんも私も愛煙家であり、飲酒愛好家ですのでこれはきつい決まりです。煙草は何か人目につかないところで楽しみましたが、酒類はどこにもありません。

同じコテージにはタサニさん一家も宿泊しています。水野さんと2人で一番奥の部屋が割り当てられました。奥は良いのですがその前がトイレ兼シャワー室ですので、人目がたくさんあります。ベッドにシーツを付けてくれ、蚊帳も吊ってくれました。トイレには紙がありません。代わりにホースの口があります。お尻は水で流すのです。シャワー室にはシャンプーも石鹸もありません。もちろん水しか出ません。ゴミ箱も見当たりません。

学校建設などの時には、日本人がたくさんいますので、それらの準備をしてから宿舎設営になります。今回は日本人は4人名だけでしかも何の準備もしてありません。厳しい生活が始まります。

ミサ

夜の8時からミサが始まります。子供たちが40名ほどいます。大人が十数名います。それぞれいろいろな関係でこのキャンプに関わっている人たちです。いちいちその関係を知ることは言葉が通じないから不可能に近いことです。

大人の中に西洋人が2人います。スウェーデンのヘルシンキ大学から来た2人で、冬の間の半年間を「希望の家」で過ごしているのだそうです。まだ20歳ほどでとても陽気ですが、言葉が通じないし、音楽もからっきしだめな者にとっては付き合いきれません。彼等はスウェーデン語はもちろん、英語も自由に話し、タイ語もかなり上達して子供たちにもてています。行動力もあります。

ミサの場面で挨拶をしましたが、どうせ簡単には覚えてもらえません。水野さんもほぼ小生と同じであまり話も進みません。子供とも遊ぶ場面はほとんどありませんでした。

夜になると、懐中電灯なくしては外に出ることも出来ません。雨季とは違いますので蚊はあまりいないように感じました。外に出ると星と漁火がきれいに輝いています。それ以外には光がないのです。

海にはイカ釣りの緑の火を灯した船がたくさん並びます。とてもきれいです。星も良く見えます。ちょうど北斗七星が北の空低くにくっきり見えます。赤道に近いのだから南半球の星も見えるはずですが名前が分かりません。

やむをえずアルコールなしで静かに寝ました。明日には何とかしたいものです。蚊もあまりいなくてよく眠れました。でも若い伊藤さんはかなり刺されたそうでムヒを貸してあげました。波の音は夜中にはかなり大きく聞こえます。

3月21日(土) 起床と散歩

朝は5時ごろに眼が覚めました。人がトイレに行く音で眼が覚めました。5時半ごろには海岸に出て

日の出を待ちますが、生憎と、東の空にだけ入道雲が居座っています。雨の心配はありませんが、朝日が見えません。6時になっても明るくなりません。6時15分ぐらいが日の出のようです。

旅行に行くとき、南へ来たのだから日の出が早いのではないかとよく聞かれますが、緯度ではなく、軽度が大変なのです。その国の標準時間を決める経度から左右にどれだけ、離れているかによって日の出の時間が変わります。

タイの国ではおそらくかなり東の方に標準時刻用の子午線があるのでしょう。春分の日の次の日なのに6時過ぎてから日が上がったようです。雲で日の出は分かりませんでした。真っ赤に雲が焼けただけです。日本では「朝焼けは雨」の諺がありますがこちらのタイではまず雨の心配はありません。今は乾期です。でも4・5日に一度は夕立が来るそうです。

日の出が見えませんでしたので、あきらめてその後は散歩に出かけます。入り口の扉は開けられていました。門の外はT字路になっていて、正面は国道に通じる道で昨夜来た方向です。北は狭い道で行き止まりになっているようです。南は隣のアパートの入り口に当たり、守衛がパラソルを差して座っています。

まずは正面の方向に向かいます。右側で大きなホテルを建設中です。そして、工事現場の囲いの中央部に、出入り口があって、中に飯場があります。朝から賑やかです。そして入り口近くにいくつかの商店が見えました。第6感として、「ここならアルコールを売っている」と感じました。ひとりで散歩していたのでその時はそのまま帰りました。さすがすばらしい発見です。

朝食をとった後、今日の予定は軍隊の見学とそこでの朝食と言うことでした。朝方はまだ潮がかなりたくさんあり、砂浜が見えませんが誰も泳ごうとはしていません。わずかに出てきた砂浜に大きな「くらげ」が落ちていました。なんでも昨日の水泳中にくらげに指される子供が何人かいたそうです。

男の子が竿でそのくらげを引き上げました。全く馬鹿でかいくらげでした。足のひれは見えませんが、名前も分かりません。これで食用のくらげが取れたらかなり大量だとすぐに食べることを感じました。

プランプリ村へ

今日は陸軍の基地の見学が主な見学場所です。バスに乗せてもらって、出発します。国道4号線をさらに南下します。宿舎のすぐ南に飛行場があります。「ホアヒン・チュアム」飛行場です。バンコクから200kmほど離れていて、おそらく定期便はないでしょうが、金持ちたちはヘリコプターや家用飛行機でこのリゾート地へ来るのでしょうか。

飛行場を過ぎるとホアヒンの町に入ります。かなり大きな町です。ホアヒン市は西洋人向けの高級リゾート地で、チュアム市は、タイ人向けの大衆海水浴場だそうです。商店街もホアヒンのほうがたくさんあっていつもにぎわっているようです。

ホアヒンの町を通り越し、さらに10kmも南下して、

隣国ミャンマーとの国境を形成している山々が海岸に迫ってくると、ホアヒンの次の村がプランブリ村です。その西部にダナラジ陸軍基地があります。国道から右に曲がると巨大な敷地の基地です。最初の内は自由に入れるようで、数キロ行ってから検問所があり、そこからは許可なくては入れないようです。

さらに数キロ進むと、戦争博物館がありました。途中で軍隊の行進や訓練を見ることもなく、これが軍の駐屯地かと疑問に思うほどでした。

戦争博物館

最初に見学したところは博物館で、中には古い武器が並んでいました。日本製の三八銃もあります。男の子たちは興味深く見ていましたが、女の子はあまり興味がないようでした。あまり武器に興味をもってもらいたくはありませんが、この子達の多くは軍隊に入ることを希望しています。国を守ることで、食料が豊富で、給料の高いことが魅力でしょう。

私にとっては、それらの武器より、タイの国の古い歴史地図に興味がありました。それは大陸の国ですので、国境が何度も大きく変わっていることです。力が強い時は大きく周りを占領できますが、弱くなれば周りから攻め込まれます。

特にタイにとっては、わずか1千年ほど前に北部にタイ民族の国ができたばかりです。現在の統一王国はわずかに、130年ほど前にできたところです。

外には戦車や高射砲あるいは装甲車などが飾られています。飾ってあるというより放置してある感じで、どれも錆だらけでペンキも剥けています。日本製の戦車もありました。そのほかイギリス・スウェーデン・フランス・アメリカなど多くの国の製品が並んでいます。タイでは自国製の戦車は無いようで、時によっていろいろな国から戦車などを購入したようです。

弱小国では無理のないところです。常に強大国の植民地に挟まれ、日本とも友好関係を結び、また第2次世界大戦の途中からはアメリカとも仲良くしてどの国の植民地にもならずすみましたが、常に危険を含んでいたのです。

現在では西のミャンマーの軍事政権に脅かされ、マレーシア系のイスラム教徒のテロも起こっています。まだまだ平和ではありません。

射的場

バスで1kmほど移動して今度は射撃訓練場です。訓練場といっても本当の軍隊が訓練するところではなく、観光客に戦争ごっこをさせて観光収入を稼ぐところです。

まずは係りの人のエアーガンによる実演です。見事に人形に当てました。そして、ひとり20発で300パーツ(約1000円です)子供たちはそんなお金をもっていません。タサニさんが交渉して、ひとり3発ずつで30パーツほどにしてもらい、半分ぐらいの子が試し撃ちをしました。女の子も最初は嫌がっていましたが、参加しました。イスラエルでは男女関係なく兵士になります。これからは女子が中心に世界は動いて行きます。これぐらいのことには

女子も関心をもってもらいたいものです。

その後で、大人高校生が10名参加して集団戦です。ちょうど雪合戦と同じです。五人一組で、一人に弾は20発あります。敵の旗を取るか、全滅させれば勝です。我が水野さんも言葉は分かりませんが連合軍に参加しました。係りの人が4人ほどで審判をします。隠られるように、塀や家屋が造られています。樹木もあります。

最初は遠くから撃っていますが、徐々に接戦となり、すぐに連合軍が人数がいなくなって、同盟軍の勝利に終わりました。興味ある人にとってはたまらない魅力あるお遊びです。実践ではありませんのでリセットが効きます。でも実際の世界ではこのような実践があちらこちらで行われているかと思えば悲しいことです。早く世界平和が来ますように。

そして最後に、坂さんが実弾のライフルの試し撃ちです。算難ながら私は、空気銃ですらその弾がどこへ飛んで行ったか見極めることができませんので、修正できずに撃つことができません。私にとってはダーツで十分です。

実弾はさすがに音も違います。金属音が山にこだまします。一発ずつ望遠鏡で確認し修正しています。的に当たった分は修正できますので、より上達するはず。10発打ち終わってのを回収しました。見事に9発分の穴が開いています。中心の10点には当たっていませんが、9点から1点までにほとんどが入っていました。すばらしい腕前です。

H・エバソン・ホアヒン

プランブリ村の海岸もホアヒン海岸に続く高級リゾート地です。そこに構えているホテル・エバソン・ホアヒンおよびそこに隣接するエバソン・ハイダウェイ・アンド・シックスセンス・スパ・アット・ホアヒンは特に高級ホテルで有名だそうです。

なんとこのホテルで今日の昼食をご馳走になるのだそうです。最高の部屋が1泊で8万バーツ(約29万円)だそうです。子供たちどころか私たちでも一生に一度お目にかかるかどうか分からない高級ホテルです。希望の家の関係者がこのホテルで働いていて、支配人のアラン氏に希望の家の海水浴のことをはなしたら、昼食にご招待するということで今回のお邪魔となりました。

まずはウエルカムドリンクのお迎えです。冷たいお絞りとなんともいえないトロピカルフルーツのジュースです。何杯もお変わりしたい味ですが、はしたない。そこから広い庭園内を歩いて、ひとつのレストランに到着して、子供たちから席に着きました。入り口には、バイキング昼食1400バーツ(約5千円)のメニューが書いてありました。

50パーツ出せばトムヤンクンやラーメンが食べられます。百倍の料金です。座席も違います。フカフカの椅子です。まずは、アラン夫妻の演説に始まり、一度に取りに行かないようにお行儀よくテーブルずつ食事を取りに行きました。日本人のようにあれこれと食べきれないほど1度に取るのではなく、ほしい物を1品か2品だけ取ってきて食べ初めまし

た。大人もいただきましたが、やはり高級なレストランらしく味がとても良いものでした。

子供たちも最初は恐る恐る少しずつ取ってききましたが、そのうちに気に入った者を沢山ずつ取ってくるようになります。ケーキやフルーツなど腹がはちきれんばかりの子もいます。

ラフ族民族ショー

みんなが十分に満腹になった後で、今度はお礼に、ラフ族の民族ショーを見せることとなります。階段下にソファが20席ほど置かれ、私と水野さんがサクラで座っていると、徐々に人が集まりだします。

まずは支配人のアレン氏の解説があり、皆さんに募金を呼びかけてショーが始まります。まずはラフ族の歌を中2の女の子チェリーちゃんの独唱があり、その弟のジョニー君のギターと独唱が行われます。残念ながらこの時は、マイクの調子が悪く後ろでは聞き取れないほどでした。

その後で20数名による歌と踊りになります。これは見事によく聞こえました。最初は40名ほどの観客でしたが、従業員も手を休めて聞き入り、通る自動車もゆっくり走り、最終的には75名の観客が集まりました。この演技のために、前の日のミサの後や朝の体操の後でも練習を繰り返してきただけのすばらしい出来栄です。

突如の演奏会でこれだけ集まるのだから予告をしていたら5百人ぐらいは集まったのではないのでしょうか。すばらしい民族ショーとなりました。衣装も陸軍博物館内の部屋を借りて替替えていたのです。

その後は2班に分かれてのホテル内の見学です。超高級な部屋は全て土の壁などで囲まれていて、プライバシーが守られています。子供たちの遊ぶ部屋や勉強する部屋や、テニスコートなど豊富な施設が並んでいます。樹木も適当に映えていて木陰を作っています。子供たちにとっては生涯で最高のものを経験したのではないかと思います。

マングローブの林

プランブリ村にはもうひとつ見るものがありました。それがマングローブの森の再生です。プランブリ村の名前の由来は村の中央に大きなプランブリ川が流れています。この川はかなり内陸部まで潮が満ち干きし、マングローブの林がたくさんあったのです。しかし、日本が世界各地から車海老を高価で購入するようになると、貧しかったタイ国では、貴重なエコ資源であったマングローブの林を伐採して、海老の養殖場に変えてしまいました。

そして海老を養殖して儲けたのですが、その養殖場は残った餌やフンなどで富栄養化して荒廃してしまいました。そこで養殖業者は次のマングローブを求めて消えてしまいます。このように悪化した土地が増えてきたので、政府はマングローブの林を再生させようと動き出しました。

1995年から国家プロジェクトとしてマングローブ植樹が始まり、2007年には見事に再生された森を公園として整備して学習センターにしたのです。それがここにある、シリナート・ラジニ・エコ

システム学習センターです。ホテルエバソンからわずか10分ほどでこの学習センターに到着しました。

まずは係員の説明と映画です。40人の保育園から高校生までの子供たちを見事に集中して聞かせる職員の腕前には感心しました。言葉が分からないから推測でしかありませんが、子供たちに大きな返事をさせ、簡単な数字から始めて、難しい環境の内容まですばらしく分かりやすく説明しているようでした。

さらには部屋を出てマングローブの林の中の栈橋を一回りしましたが、脱落する子供はほとんどいませんでした。ここを出るとまた1時間かかって天国の宿舎へ帰りました。子供たちは帰りのバスの中でも歌を歌いだしました。6時に宿泊地に着きました。

飯場の売店

宿舎に戻ると、暇になったので水野さんと散歩に出かけます。今朝目をつけておいた飯場へ出かけます。宿舎から200mほどしか離れていません。巨大な海滨ホテル(ひょっとしたら賃貸しのアパート風かもしれません)の後ろ部分に当たり、反対側の正面の方はすでに営業を開始しているようです。

その工事は10階付近で昼間には盛んに行われていました。まともな足場も組まれずに、材木で組まれていて命綱もありません。そこで働く人々100人ほどのバラック建ての家が並んでいます。これだけの工事だと始まってからすでに1年以上はかかっていると思われます。2階建ての宿舎がひしめきあっています。

その飯場の入り口付近に4軒ほどの店があります。どこまでが1軒なのかよく分かりません。雑貨屋であり外にテーブルの置いてある店では酒類も売られているようです。

タイのビールには高級の「シンハー(獅子)」中級の「チャン(象)」と「レオ(ヒョウ)」が普通は置かれています。田舎や貧しいところではシンハーが中々ありません。そして貧乏人用には「焼酎」が置かれています。

早速に注文すると、ちゃんとシンハーもありました。水野さんがほかの店からつまみにとお菓子類を買ってきてくれました。24時間ぶりのビールはとてもおいしかったです。特に昼間は暑いので昼食時に飲みたいのですが、希望の家と同行中は思うようにはなりません。

飯場の人で飲んでいる人もいますが、言葉が通じません。帰りがけに睡眠薬代わりに焼酎を購入して気分良く帰りました。

飯場前のお店

飯場の中のお店は4軒で食材や雑貨だけですが、今日は土曜日のためか、工事現場から道を挟んだ反対側の広場には5・6軒の屋台が並んでいました。焼肉屋もありますが、衣類や履物などを売っている店も並んでいます。どれもトラックやリヤカーで品物をもって来た出店です。

伊藤理恵さんが、ビーチサンダルを欲しがって

ましたので、その履物屋さんで買って上げました。沢山は並んでいませんでしたが、適当な大きさのものがありませんでした。わずか40パーツ(約150円)でした。

私もタイへ来る前にビーチサンダルを買って来ました。スーパーなど3軒ほど回りましたが、スリッパは売っていてもビーチサンダルは売っていませんでした。どこの店員も「時期ではありませんので」と言うことです。時期でなくても欲しい人はいるでしょうが、少数の人のことを考えてはスーパーなどでは商品の回転が悪くなり、在庫が増えるだけで儲けにならないようです。それが現在の日本の商法です。夏にホカロンを買おうとしても売っていません。

やむをえず、スポーツ品店で高いプーマのブランド品を買うこととなりました。千八百円もしました。飛行機の中でこの話をして笑われました。そんな高い物を買ってこなくてもタイで安く帰るのに。

でもタイに来て、2日間買い物もできなかったことを考えれば、やはり日本で買ってきて正解でした。買い物できるところに連れて行ってもらえないことを考えなくてはなりません。

バーベキュー

夜の食事はバーベキューと言うことで、準備が始まりました。普通の食事は食堂の中で調理しますが、バーベキューのコンロは希望の家から持参したもので、1m×25cmほどの小さなコンロが2つです。これだけで大人も含めて50人分ものバーベキューを焼こうというのですから無茶な話です。

炭に火をつけるところからもたもた行っていたので、ついお手伝いをするようになりました。炭は日本の備長炭とは違って、簡単に火が付きますが、すぐに勢いよく燃えて、すぐに燃え尽きてしまいます。

バーベキューで焼くものは、アジのような魚・小さなイカ・ひげの長いイセエビのような海老、小さなカニ、豚肉とたくさんそろえてあります。しかし、困ったことに、沢山コンロに乗せて、焼き終わる時にはもう火が下火になってしまいます。1回焼くたびに炭を追加しなければいけません。また豚肉を焼く時には油が炭に入って激しく炎を上げて、黒こげになってしまいます。

カニを焼いて記憶はありません。どれだけ焼いたらよいか分かりませんし、焼くものが多いのでカニだけは茹でてもらう様に頼みました。食事は全員そ

ろってお祈りをしてから食べますので、先に焼いたものはさめてしまっています。せっかくのバーベキューも焼きたての熱々を食べなければおいしくないのに。すでに夜の7時半を回っていてさすがの子供たちもお腹がすいただろうに。

痺れを切らして何とか途中から食事が始まりましたが、バーベキューの最後を焼き終わった時にはすでにみんな食事が終わった後でした。焼き手はまともに食事できませんでした。それでも初めて手伝いができてみんなの役に立ったことでよく眠れました。

ホアヒン市の夜店の見学

食事を終えて、すでに9時過ぎていましたが特別にトラックを出してもらえることになりホアヒン市の夜店見学が行われました。参加者は日本人4人とスウェーデン人2人の合計6人と運転手さんです。ムさんはもう遅いからと遠慮しました。

ホアヒンの町はかなりの賑わいであることを昼間通ってみて来ました。夜の店もすごくにぎわうことを聴いて楽しみにでかけました。飛行場下のトンネルを抜けてホアヒンの町に入るととてもにぎわっています。

町の中心を少し越えたところに自動車を停めて、夜店見学が始まります。6人ですがすぐにばらばらになってしまい、結局は水野さんと2人での散歩になります。

一番の夜店通りは2車線分の通りを完全に歩行者天国にして、車道の両側に露店が延々と並んでいます。両側の商店とあわせて、4列の商店街になります。人出は3本の川となって流れます。とにかくすごい人です。立っているだけでも押されて自然に動いていくほどです。

「ロツテ」と書かれた卵を薄く焼いて丸めた店はどこも行列ができていました。捨てた卵の殻が一斗缶からあふれて散らばっています。とてもその殻の始末まで手が回らないほどの忙しさです。これが今タイではブームになっているのでしょうか。

どこまで歩いても切れ目がないようで、途中で引き返しました。そして夜店の始まっている近くの喫茶店でコーヒーを飲んで外の賑わいを見物しました。タイでまともなコーヒーを飲むことは簡単にはできません。たいていが砂糖の沢山入ったインスタント物ばかりです。さすがに10時を過ぎると人出は減り出しました。

お知らせ①

～奨学金スタッフからのお知らせ～

○無記名の奨学金振り込みについて

4月18～25日頃、名前なしの奨学金1万円と会費3千円の振込みがありました。領収書を発行したいのですが、名前と住所が書いていないため発行できない状態です。心当たりのある方は、事務局までご連絡いただくと幸いです。よろしくお願い致します。

○奨学金のご入金時期について

6月19日～26日にタイのイサーン地方 11 県で奨学金授与式を行います。それに伴い、6月6日（土）に事務所でドナー様と奨学生とのマッチング作業をします。

ドナーの皆様には今年度もお早めにご入金いただきまして、誠に感謝しております。

今年度奨学金支援の入金×切は5月29日（金）です。まだご入金いただいていない方は、なるべくお早めにご入金いただきますようご協力よろしくお願い致します。

お知らせ②

～2009 年度夏のワークキャンプ参加者募集～

今年度もタイ東部サケート県でワークキャンプを行いますので、興味のある方はぜひご参加くださいますようお願い申し上げます。詳細を知りたい方や参加ご希望の方は事務局までご連絡ください。

日 程：2009 年 8 月 22 日（土）～30 日（日）9 日間

参加費用：53,000 円（会費 1 年分含む）

※別途航空券（バンコク往復）が必要

運営委員会

（2009 年 1 月～2009 年 4 月）

活動	月日	場所	内容
運営委員会	1月24日	事務所	奨学金授与式、8月ワークキャンプについて
運営委員会	2月20日	事務所	3月キャンプについて
運営委員会	3月27日	事務所	総会準備
総 会	4月5日	事務所	平成 20 年度総会

運営委員募集

一緒にキャンヘルプタイランドの運営に参加してみませんか？

毎月第 4 土曜日に事務所に集まり、会の運営について話し合っています。見学でも結構ですので是非事務所へ遊びに来てください。

次回の運営委員会は 5月23日（土）13：00～（事務所にて）です。

編集後記

▼ 今年の 3 月、7 年ぶりにタイの友人を訪問してきました。その友人は 1996 年のブリラム県でのワークキャンプでお世話になった先生で、その後も自宅に 2、3 度泊めていただいたりしていました。今は古都アユタヤから車で 30 分のところに住んでいらっしゃいます。僕より 5 歳以上年上ですが、一昨年 20 歳も年下のお嫁さんにご結婚され、現在は 5 ヶ月の赤ちゃんがいらっしゃいました。なんだか、算数の応用問題のような文章になってしまいましたが、古い友人に久しぶりに会うことは、まるでタイムマシンに乗ったような感覚でした。

<キャンヘルプタイランドネットワーク通信 Vol.45>

発行 キャンヘルプタイランド
 発行人 西川 弘達
 編集人 坂 茂樹
 発行日 2009年5月10日
 住 所 〒450-0003
 名古屋市中村区名駅南2-11-43
 NPOステーション内
 Tel & fax 052-566-5131
 （OPEN：毎週火、木・土曜の13～17時）
 E-mail: canhelp@npo-jp.net
 ホームページ: http://www.canhelp.npo-jp.net